

## 「えっ…私が？」

福岡国際大学 大浦隆陽

昨年、平成23年6月11日に「社団法人全国大学体育連合」(平成24年1月からは「公益社団法人全国大学体育連合」となる。以下大体連と略)から、平成22年度の総会の席で「大学体育教育賞」という賞をいただきました。本来なら3月17日に総会は開催されるはずでした。しかし、東北地方を襲ったあの3月11日の大震災で、総会は6月に延期になったのです。

その席上、記念の楯を拝受する際、忸怩たる思いに苛まれながらも、一方で橋本公雄先生(九州大学)をはじめ、私を指導、そして支えてくださった多くの先生方に感謝する気持ちが、沸々と湧き上がってきたことを鮮明に覚えています。のちに経緯や思いは、「大学体育 97号 p.16」に「忘れえぬ弥生の出来事」というタイトルで、拙文を認めています。

### <起編>

この賞は、第一に橋本公雄先生の「大浦君、九州地区大学体育連合(以下九体連と略)の事務局を引き受け、そして理事長をしてくれ」という一言に端を発します。私の第一声は、「えっ…俺が?先輩なに考えとっとお~できるわけないやん!もお~」でした。しかし、後輩であり、しかも浅学非才のこの私への三顧の礼(というより、なにがなんでもという説得のスキル・揺ぎ無きごり押しのスキル)と、命令に近い最初の鶴の一声がなければ、現在の私はありませんし、もちろんこの受賞もなかったでしょう。

平成18年度から20年度までの3年間、その役を担いました。特に、19年度は中央研修会が九州担当でした。鹿児島県理事、大村一光先生(鹿児島女子短期大学)を中心に準備が進められました。先生の準備万端さには、ただただ頭が下り且つ頼もしい限りでした。また、情報交換会おける磯貝浩久先生(九州工業大学)の愉快な名司会は、参加の先生方全員に登壇を促す巧みな話術で、大好評でした。これを契機に多くの先生方との交流、パイプ作りが始まりました。中央研修会の概要は、「大学体育 90号 p.15~p.52」に掲載されています。また、「同 91号 p.152」に支部活動報の中で触れています。



表彰盾を手に著者と福岡国際大学の安達義弘学長

### <承編>

第二に、私一人では当然事務局は成り立ちません。近隣大学の先生方と合同でお引き受けした次第です。その内のお一人、筑紫女学園大学の宮平喬先生(当時の庶務担当理事)は、「先生には恥をかかせません」といって、所属大学の多忙な校務があるにもかかわらず、確実に仕事をこなしてくださいました。また、福岡女子短期大学の宮嶋郁恵先生(当時の会計担当理事)は、まるで銀行マンごときの緻密さで(普段はもっとおおらかなお人柄みたいに見えるのですが)、帳簿と領収書とにらめっこするお姿に全幅の信頼を置いたものです。「あなた方に任せました!」と。宮平・宮嶋先生に限らず、そのような周りの先生方から支えられていたことが、そして多くの先生方との関係が私の財産であることはいうまでもありません。現在も、大体連・九体連の仕事にかかわり続けていられるのは、大体連と九体連の先生方がそこにいてくださるからです。

### <転編>

第三に、九体連の理事長は、大体連の九州支部長を兼ねることになっていました。したがって、大体連の九州選出理事として年に数回、東京や中央研修会の会場に足を運ぶことになりました。そこで感じたことは、九州を注目してくれている、関心を寄せてくれているのではないかと。これまで九体連を築き上げてこられた先達の先生方に、さらに敬意を表すとともに任の重

さを改めてしられたことでした。

そこで私が思ったことは、大体連の理事の先生方に九州に来ていただくということでした。九体連の大きな事業として春期研修会があります。この研修会に、講演者・シンポジスト等としてお話をいただこうと依頼をしました。大体連の前々理事長、杉山進先生（お茶の水女子大学）・前理事長、山田茂先生（当時東京大学、現実践女子大学）・現理事長（1月からは専務理事）、小林勝法先生（文教大学）が快くお引き受けくださいました。研修会のグレードをさらに引き上げてくださったと思っています。また、大体連理事、沼澤秀雄先生（立教大学）・心理分野の竹中晃二先生（早稲田大学）・社会分野の森正明先生（中央大学）が、同様に且つ充実した研修会にしてくださった先生方でした。グレードといえば、橋本公雄先生の世界的規模の人脈で、米国より招聘し講演をいただいた、Rafer Lutz, Ph.D.・Miya Kato Rand, Ph.D.・Philip E. Martin, Ph.D.の三先生を忘れてはなりません。そして、最も重要なことは、多方面でご指導またご尽力いただいた多くの先生方のお力無しでは、これは語ることはできないということです。特に、私が九体連の理事長時、会長でいらしゃった根上優先生（宮崎大学）・その次の会長橋本公雄先生・現会長飯干朗先生（鹿児島大

学）と、先生方に感謝の言葉が見いだしえません。

私の連合への貢献があるとすれば、それは何だったでしょう。振り返りますと、みなさんが、「うむ…しかり！」というようなことは何一つできていないような気がします。しかし、大体連と全国の各支部と九体連の関係作りに、微力ながら少々お役にたてたのではないかと勝手に思っています。

### <結編>

最後に、私の勤務する大学は、1学年120人と極めて小規模な大学です。これまで選択科目であった「体育実技」が、平成22年度入学生から必修科目となりました。それは、本学の当時教務部長の任に就いていらしゃった、安達義弘先生（平成22年4月1日より学長就任）の提案と後押し、そして多くの教職員の理解と支援、かつ理事会が認めたからこそ実現できたものがあります。必修化できた、このことも評価をいただいたひとつの大きな要因ではないかと思っています。

このような私一人では不可能な積み重ねが、つまりこの「賞」は、私を導き、かつ支えてくださった多くの先生方全員でいただいた「賞」です。

ただ私はその多くの先生方の代表として、この「賞」をいただいたものであると…。